

土佐市立 土佐南中 学校						公印	N O . 2
重点項目	評価項目	評価判断基準	達成指標	成果・課題	評価	改善策 (A)	学校関係者評価記入欄
学校組織の活性化	教職員個人に対する学校参画の意識の育成が図られているか	市指定の教職員アンケートの「個人に関わる内容」で、5段階評価の平均で判断 4以上 =A 3.5以上=B 3以上 =C 2.5以上=D 2.5未満=E	27年度、教職員アンケートでは5段階評価でBであった。 28年度は5段階評価でAを目指す。 ・H27:7項目平均3.78→H28:7項目平均3.73(-0.05)	○昨年度よりごくわずかが下った。前年度の反省を生かす、地域との連携といった項目での下降であった。人事異動の規模が大きかったことが影響していると思われる。 ○学校ビジョンの考慮では、大きく上昇した。	A B C D E	○新しく赴任した教職員への心配りを強化する。 ○見やすくわかりやすい教育計画の作成と運用 ○学校ビジョンの徹底	○特になし。
	学校全体で課題の共有による、協同的な取り組みが図られているか	市指定の教職員アンケートの「教職員相互に関わる内容」で、5段階評価の平均で判断 4以上 =A 3.5以上=B 3以上 =C 2.5以上=D 2.5未満=E	27年度、教職員アンケートでは5段階評価でBであった。 28年度は5段階評価でAを目指す。 ・H27:5項目平均3.56→H28:5項目平均4.07(+0.51)	○全項目で昨年度よりも高い点となった。特に、発言できる雰囲気、力量の高め合いでは、0.9P、0.7Pと大きく上昇した。コミュニケーションをとることに對しての困難さがなくなりつつある。	A B C D E	○コミュニケーションを重視した職場の雰囲気づくり ○教員人事面接の充実 ○学校組織マネジメントに関する研修の実施	
	校務分掌の見直しにより組織の活性化が図られているか	市指定の教職員アンケートの「校務分掌に関わる内容」で5段階評価の平均で判断 4以上 =A 3.5以上=B 3以上 =C 2.5以上=D 2.5未満=E	27年度、教職員アンケートでは5段階評価でCであった。 28年度は5段階評価でBを目指す。 ・H27:4項目平均3.31→H28:4項目平均3.57(+0.26)	○組織の連携以外の3項目で昨年度より高い値となった。 ○職員数の減少に伴い、一人が責任をもって取り組まなければならない場面が増えることが組織の連携に影響を与えている。 ○適切な仕事量の否定群が増えたことには要注意。	A B C D E	○研究組織や校内分掌の見直し ○各主任を中心に組織の活性化に取り組む ○校内サーバーを活用したグループウェアの実施・充実 ○学校組織マネジメントに関する研修の実施	
	学校評価をシステムを活用した組織の活性化が図られているか	市指定の教職員アンケートの「学校評価に関わる内容」で5段階評価の平均で判断 4以上 =A 3.5以上=B 3以上 =C 2.5以上=D 2.5未満=E	27年度、教職員アンケートでは5段階評価でBであった。 28年度は5段階評価でAを目指す。 ・H27:6項目平均3.85→H28:6項目平均4.24(+0.39)	○全項目において昨年度よりも上昇すると同時に、ほとんどの項目が4点台と高い値になっている。昨年度末に教員全員で学校の課題を洗い出し、学校ビジョンをつくりあげ、図式化して共有したことにより、学校ビジョンがより身近なものとなった。	A B C D E	○新しい課題への対応として各取組の具体的見直しを図る ○学校経営計画のさらなる共通認識 ○研究組織や校内分掌の見直し ○保護者の評価をより適切に反映できるシステムの構築	
	●保護者アンケートによる検証の継続 ・組織の開かれ度・教職員の服務・態度 ●校務分掌・組織の見直し、校務の効率化→ショートの職員会の設定・学校PCネットワークの活用 ●小中連携事業の組織化→「土佐南中学校区学力向上小中連携推進事業」の推進 ●学校経営計画作成・検証の分担と共通理解 ●学校ビジョンの徹底とPDCAサイクルによる見直し				A B C D E	○学校経営計画策定への参画と共通理解 ○職業能力育成型人事評価制度の有効活用 ○学校ビジョンの検証	
2 かわろう学校 安心・安全な学校づくり	特別支援教育の充実	特別な支援を必要とする児童生徒に対する「個別の指導計画」の作成率で判断(発達障害等、傾向も含めた対象児童生徒を母数とする)。 100%=A 90%=B 80%=C 70%=D 60%=E	27年度は5段階評価でDであった。 28年度は5段階評価でCを目指す。 ・H27:特別支援学級の生徒についてのみ作成(3人/4人:75.0%) ・H28:対象者全員について作成(3人/3人:100%)	○通常学級の中で支援を要する生徒1名についても個別の指導計画を作成中。 ○具体的な支援方法に苦慮することがある。	A B C D E	○特別支援教育の校内支援会議の充実 ○各学年で達成目標を立てて、共通理解のもと指導を継続 ○通常学級にいる支援を要する生徒についても個別の指導計画を完成させる。 ○PDCAサイクルを回す。 ○外部機関の支援を要請する。	○4年男子がゴールポストの下敷きになって死亡したという事故があった。この事故は防げたはず。子どもたちはグラグラすると認識していた。では、なぜ防げなかったのか。学校の安全に対する認識が甘いのではないだろうか。事故を防ぐためには、最初に気付くのは子どもたちだ。子どもたちが先生に言ったときに、その場で対応しないといけない。安全教育が甘いのではない。安全がある。子どもたち自身が考えないといけない。○今、南中で、一番気になるのがイノシシ。昨年、25kgクラスを一頭捕まえた。うり坊がいるという事は、近くに親がいる。もし、突っ込んでこられたら非常に危ない。毎年、捕らないと、5年で100kgになる。今、一番心配しているのは、イノシシだ。
	服務規律の徹底	(体罰を含む)不祥事防止についての研修を年間に何回行ったかで判断する。 年間4回以上実施 = A 年間3回 = B 年間2回 = C 年間1回 = D 年間0回 = E	27年度は5段階評価でAであった。 28年度も5段階評価でAをめざす。 ・H27:4回→H28:4回	○その都度、不祥事防止について研修し、グループ協議を行い、意識し合ってきた。 ○毎年、冊子や資料等を使って、定期的な実施となるよう計画していく。	A B C D E	○冊子「信頼される学校づくりのために」を活用して定期的な服務研修を実施。 ○事例研修の実施。 ○校内研修における不祥事防止策の協議検討。	
	校内の事故(けが)の防止	校内けがの発生率で判断。(スポーツ振興センターにかかった年間の件数÷児童生徒数×100)。 ・4%未満=A 8%未満=B ・12%未満=C ・16%未満=D ・16%以上=E	27年度は5段階評価でDであった。 28年度は5段階評価でCを目指す。 ・H27:発生率15%(15件)→H28:発生率12.5%(10件)	○一昨年度より大幅に減少した昨年度よりもさらに発生件数が減少した。	A B C D E	○部活動や体育での怪我が多いので、準備体操や終わった後のストレッチなどで予防していくことが必要。 ○生徒会保健委員会の全校への啓発活動を充実させる ○「校内でのケガの発生ケース」について取り組む。	
	<防災訓練の推進>	マニュアルを活用した防災訓練(地震・火事)の実施率で判断。 年間5回以上実施 = A 年間4回 = B 年間3回 = C 年間2回 = D 年間1回 = E	27年度は5段階評価でAであった。 28年度も5段階評価でAを維持する。 ・H27:5回→H28:5回	○地震津波避難訓練を想定を変えながら5回実施した。 ○総合的な学習の時間を中心に防災教育については年間を通じて実施。 ○校区の小学校と連携し、下校時の避難訓練を実施することができた。	A B C D E	○3年間を見通した防災教育の充実 ○「自助・公助・共助」の実践 ○学校防災マニュアルに添った避難訓練の実施と見直し ○実施日を知らせない予告なしの訓練の実施	
	●特別支援学級生徒及び通常の学級に在籍する特別な支援を要する生徒への支援体制の構築 ●支援を要する生徒との人間関係づくりについて教職員全体で共有 ●専門委員会を中心に良い学校生活の過ごし方についての啓発活動を実施 ●危機管理マニュアルの確認				A B C D E	○特別支援教育の視点からの学級経営、授業づくりの研究推進 ○防災及び事故防止等の安全教育の推進と安全な学校づくり	
学校関係者評価を踏まえての改善点: ◇特別支援教育にかかる校内研修の実施及び充実により、個別の指導計画に従った指導を実践する。 ◇校内の事故防止に向けて、リスクマネジメントの視点を持って取り組むと同時に「ケガの発生ケース」別から見た対応方法や予防指導のあり方について校内で共有する。 ◇防災教育の内容(より現実的な防災訓練を含む)を見直す。(危険のさらなる洗い出し) ◇職業能力育成型人事評価制度の有効的な活用、学校経営計画等の共通理解。 ◇学校組織マネジメントに関する研修の実施や教員ミドルリーダーの育成。							